

第45期(2019年4月期)第1四半期 決算補足説明資料

ヤーマン株式会社

経営ビジョン～私たちが目指すヤーマン	1
業績ハイライト	5
セグメント別売上	6
セグメント別営業利益	7
売上構成	8
財務ハイライト	9
第2四半期以降の取り組み	10
業績予想について	12
配当について	13

経営ビジョン～私たちが目指すヤーマン
(スローガン)

美しくを、変えていく。

(ミッション)

美しさを実現するものづくり。

それを生むのは、尽きることのないアイデアと卓越した開発力です。

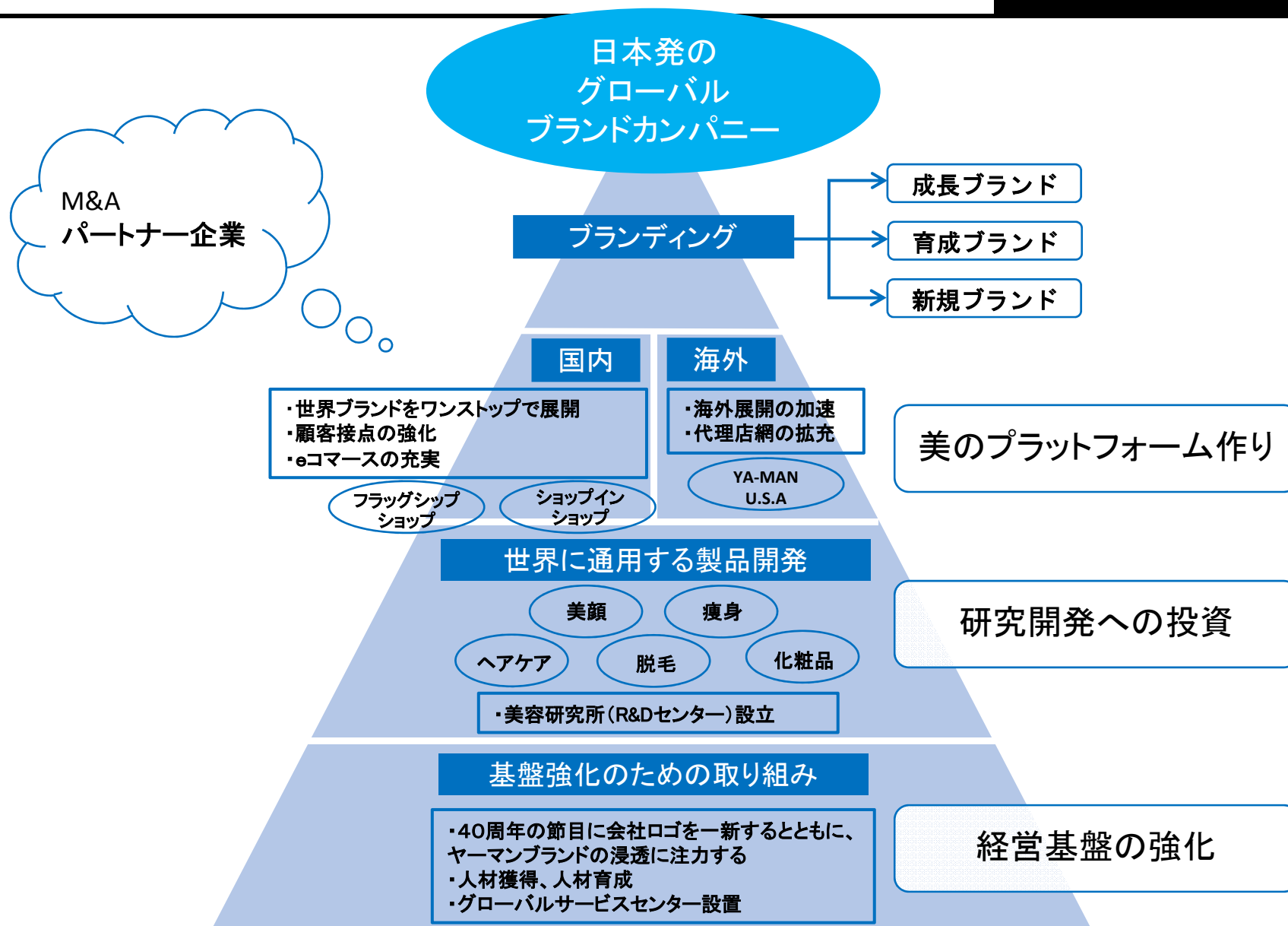
理想の美しさをかなえ、世界中に夢や驚きを届けるために、

私たちは新しい「美のカタチ」を追求し続けます。

(クレド)

私たちの行動指針

- 志をカタチに
- オリジナリティの追及
 - チャンスは自ら
- お客様ファースト
 - 共に創る



業績ハイライト

特に海外部門が好調であったことに加え、ブランディングのための投資の効果が徐々に表れ始めたことなどから、前年同四半期を大きく上回る結果となりました。

回次	第43期 第1四半期 2016年5月1日 ～ 2016年7月31日	第44期 第1四半期 2017年5月1日 ～ 2017年7月31日	第45期 第1四半期 2018年5月1日 ～ 2018年7月31日	【ご参考】 第44期 2017年5月1日 ～ 2018年4月30日
売上高(千円)	5,564,203	6,097,458	7,616,358	23,030,230
営業利益(千円)	1,107,353	1,648,784	2,242,383	5,385,662
営業利益率(%)	19.9	27.0	29.4	23.4
経常利益(千円)	1,112,423	1,626,880	2,254,602	5,345,643
親会社株主に帰属する当期純利益 (千円)	738,898	1,048,852	1,423,770	3,399,819
1株当たり当期純利益(円)	12.96	18.39	24.97	59.62

(注) 当社は、2017年11月1日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っており、第43期の期首に当該分割が行われたものと仮定して、1株当たりの数値を算定しております。

セグメント別売上

店販部門と海外部門が大きく売上を伸ばしました。
直販部門は費用対効果を重視して広告宣伝費を投下した結果、減収増益となっています。
通販部門は全体的に振るいませんでしたが、販売方法や商材などを見直し、挽回を図る計画です。
なお、当社は、4つの販路それぞれの伸長を目指すとともに、その時々状況に応じてこれらの販路のセールスマックスの最適化を図っていく方針です。

回次	第43期 第1四半期 2016年5月1日 ～ 2016年7月31日	第44期 第1四半期 2017年5月1日 ～ 2017年7月31日	第45期 第1四半期 2018年5月1日 ～ 2018年7月31日	【ご参考】 第44期 2017年5月1日 ～ 2018年4月30日
通販部門(千円)	1,560,131	1,318,989	988,928	3,816,292
店販部門(千円)	1,497,824	2,554,128	3,227,627	10,058,901
直販部門(千円)	1,804,248	1,554,917	1,411,510	5,572,722
海外部門(千円)	670,999	662,975	1,975,298	3,510,910
その他(千円)	31,000	6,447	12,994	71,405
合計(千円)	5,564,203	6,097,458	7,616,358	23,030,230

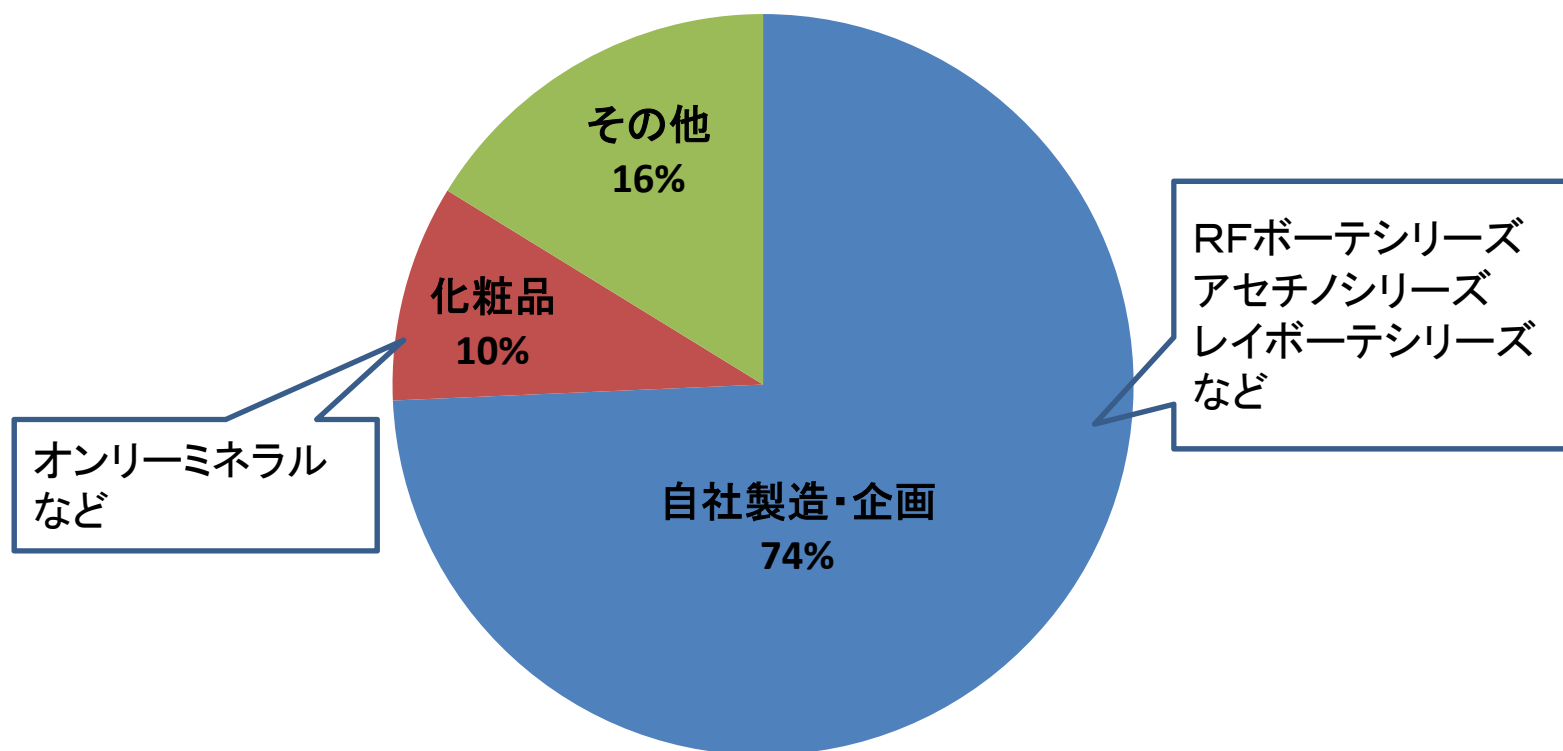
セグメント別営業利益

回次	第43期 第1四半期 2016年5月1日 ~ 2016年7月31日	第44期 第1四半期 2017年5月1日 ~ 2017年7月31日	第45期 第1四半期 2018年5月1日 ~ 2018年7月31日	【ご参考】 第44期 2017年5月1日 ~ 2018年4月30日
通販部門(千円)	676,596	526,793	418,208	1,514,283
店販部門(千円)	624,108	1,154,234	1,514,950	4,460,629
直販部門(千円)	372,547	574,368	625,188	2,068,770
海外部門(千円)	190,985	200,708	959,313	1,354,709
その他(千円)	11,415	3,123	4,430	16,272
調整額(千円)	△768,298	△810,444	△1,279,707	△4,029,002
合計(千円)	1,107,353	1,648,784	2,242,383	5,385,662

売上構成

当第1四半期における売上構成は、自社開発製品及び自社企画製造委託品が74%、化粧品が10%、その他仕入品などが16%となりました。

自社開発製品の「RFボーテシリーズ」(ラジオ波を使った美顔器)が好調を維持して売上を牽引したほか、脱毛器「レイボーテシリーズ」も堅調でした。



財務ハイライト

売上規模の拡大に伴い、売上債権、棚卸資産、仕入債務がそれぞれ増加しております。
現預金につきましては、ショップインショップや直営店の出店の加速、優秀な人材の確保、研究開発の強化、ヤーマンブランド確立のための広告宣伝活動などに積極的に投資を続ける方針です。

回次	第43期 第1四半期 2016年7月31日	第44期 第1四半期 2017年7月31日	第45期 第1四半期 2018年7月31日	【ご参考】 第44期 2018年4月30日
総資産(千円)	12,080,212	14,578,824	18,654,517	16,524,115
純資産(千円)	7,450,336	9,627,568	12,971,349	11,877,492
自己資本比率(%)	61.7	66.0	69.5	71.9
現預金(千円)	6,117,508	8,319,334	10,285,742	10,168,850
売上債権(千円)	2,116,483	2,445,041	3,386,718	2,580,729
棚卸資産(千円)	1,854,349	1,519,502	2,061,638	1,408,659
仕入債務(千円)	1,264,330	1,993,097	2,762,216	1,124,343
有利子負債(千円)	1,467,132	975,110	506,751	632,365

第2四半期以降の取り組み

当社は、売上高の伸長による会社規模の拡大はもちろん、一定の利益の確保を重要な経営課題として認識しております。

一方で、今後の成長のためには、「夢や驚きのある製品開発」、「ヤーマンブランド確立を目指した広告宣伝活動」、「直営店を中心とした顧客接点の強化」、「海外展開の推進」などへの積極的な先行投資を行っていく必要があると考えており、当面は営業利益率20%を維持しつつ、これらの投資に経営資源を手厚く配分する方針です。

家電量販店でショッピングショップの展開を開始し、店舗数を拡大中。
また、銀座・日比谷に続く直営店の出店を加速させる計画です。

関西国際空港に大型看板を掲出するなど、個々の製品に加え「ヤーマン」の認知を広げるような広告宣伝活動に注力します。



業績予想について

2018年6月13日に開示した業績予想に変更はありませんが、今後修正が必要と判断した場合には、速やかに公表する予定です。

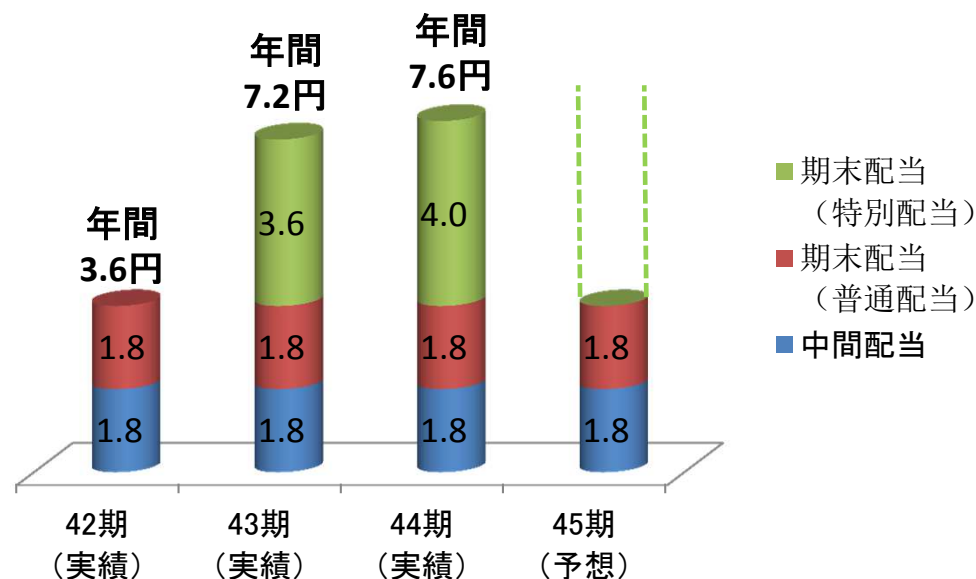
	第2四半期(累計)		通期	
	金額	対前年同期増減率(%)	金額	対前年同期増減率(%)
売上高(千円)	12,938,879	6.4	25,101,861	9.0
営業利益(千円)	2,647,798	△20.1	5,015,464	△6.9
経常利益(千円)	2,639,711	△20.4	4,999,725	△6.5
親会社株主に帰属する当期純利益(千円)	1,663,327	△21.4	3,150,012	△7.3
1株当たり当期純利益(円)	29.17	—	55.24	—

配当について

当社は、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題の一つと位置付けております。

配当金につきましては、毎期安定的、継続的な実施を原則とし、期中の業績等を総合的に勘案して決定することとしております。

(注)当社は、2017年11月1日付で普通株式1株につき10株の割合で株式分割を行っており、右記の1株当たり配当額は、当該分割の影響を加味したものです。



- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等については、様々な要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料は皆様への情報提供を目的としており、投資を勧誘するものではありません。
- 本資料のご利用にあたっては、利用者の責任によるものとし、情報の誤りや瑕疵、目標数値の変更、その他本資料のご利用の結果生じたいかなる損害についても、当社はその責を負いかねますのでご了承ください。